

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日	鏡原 寿吉	〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報システム学科	平成15(2003)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、ネットワーク、サーバー構築などの技術を修得させ、ユーザの要望を満たす業務システムやスマートフォンのアプリ開発ができる技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	基本情報技術者試験、Javaプログラミング能力認定試験、情報検定J検情報システム試験						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間 0 単位	570 単位時間 0 単位	1,830 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
45 人	54 人	1 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		16	人			
	■就職希望者数(D)		14	人			
	■就職者数(E)		14	人			
	■地元就職者数(F)		10	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		71	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) システムエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ウェブシステムエンジニア職、プログラマー職、システム運用管理職 等					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/information-systems/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		2,400 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		290 単位時間				
	うち必修授業時数		2,400 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		290 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総単位数		0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位					
うち必修単位数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			2 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			0 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			1 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			1 人	
	計					4 人	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鬼武 克行	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和7年7月1日～令和8年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
鏡原 寿吉	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・教務部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 教務次長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月1日 15:30～17:30

第2回 令和7年2月27日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が重要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
卒業研究 (企画・設計)	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業のプロジェクトチームという設定で、現状の業務やシステムに対する新しい提案を行い、システム構築に必要な要求定義をまとめる能力を、演習を通し理解する。	(株)穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部
卒業研究	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	前期に企画したシステムをプロジェクトチームの一員として、システム完成を目指し、学んできたプログラム言語やシステム開発の知識を実務に応用する力を習得する。	(株)穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ICT活用研修(中級)	連携企業等:	イーディーエル(株)
期間:	令和6年4月3日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	事例共有、ICT活用フレームワーク、色々な「共有方法」を学ぶ、10X授業デザインマップの作成、他		
研修名:	AWS Academy x Cisco Networking Academy 合同プログラム交流会	連携企業等:	アマゾンウェブサービスジャパン(株) 森井株式会社、シスコシステムズジャパン(株) 森井株式会社
期間:	令和6年8月19日(月)～20日(火)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	サイバーセキュリティ教育におけるAWS Academyの活用事例、個性あふれるエンジニアの育て方 他		
研修名:	ホワイトハッカー講座「サイバー攻撃概論」	連携企業等:	(株)フォアア、(株)フォアーズ
期間:	令和6年12月4日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	サイバー攻撃手法や具体的な仕組み、情報漏洩、経済的損失の発生プロセス、日常生活への影響について学ぶ		
研修名:	生成AI活用研修	連携企業等:	(株)ビットコミュニケーションズ
期間:	令和6年12月19日(木)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	生成AIの基礎知識(できること・問題点)、生成AIの活用事例、業務への利用 他		

研修名:	教職員のための教材開発および校務全般における生成AI活用研修	連携企業等:	Will Booster(株)
期間:	令和6年12月23日(月)～24日(火)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	生成AIを活用した教材開発演習、生成AIを活用した校務効率化の演習 他		
研修名:	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー	連携企業等:	人間環境大学
期間:	令和7年2月21日(金)	対象:	学科担当教員
内容:	表計算ソフトを使用したデータ分析の方法、政府統計データの利活用の仕方を知る		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月28日(水)～30日(金)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	キャリアサポーターのためのコミュニケーションスキル、仕事理解とキャリアガイダンス 他		
研修名:	専修学校教職員のキャリアデザインワークショップ	連携企業等:	一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年9月4日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	外的キャリアと内的キャリア、ライフラインチャート、ライフキャリアシートの作成 他		
研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和6年9月12日(木)	対象:	全教員
内容:	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う		
研修名:	クレド作成研修	連携企業等:	一社)香川県専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年2月19日(水)	対象:	学科担当教員
内容:	教師側の教え方の問題を確認し、学生側にも受ける姿勢や覚悟、責任を求める内容等について学習する		
(3) 研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	セキュリティ講座	連携企業等:	株式会社ネットワークバリュー
期間:	令和7年7月	対象:	情報系学科担当教員
内容:	現在主流のサイバー攻撃とその対策および今後のセキュリティ業界に必要となる考え方と技術 他		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和7年5月、6月、8月 他	対象:	全教員
内容:	マインドセットを育む「伝え方」の見直しおよび学生の意識づけを高める「見取り」について 他		
研修名:	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等:	福岡大学
期間:	令和7年7月、9月	対象:	全教員
内容:	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用 他		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける			
②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する			
③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標		教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか	
(2) 学校運営		運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか	
(3) 教育活動		教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか	
(4) 学修成果		資格・免許取得率の向上が図られていますか	
(5) 学生支援		退学率の低減が図られていますか	
(6) 教育環境		教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか	
(7) 学生の受入れ募集		学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか	
(8) 財務		学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか	
(9) 法令等の遵守		専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか	
(10) 社会貢献・地域貢献		学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか	
(11) 国際交流		-	
※(10)及び(11)については任意記載。			

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。またコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
渡邊 浩司	香川県立高松東高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
内海 恭子	在校生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://web.anabuki-college.net/download/guide/computer/ack_kankeisya-hyouka2024.pdf

公表時期: 令和7年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/department/computer/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	60	4	○			○		○		
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
3	○			ネットワーク・セキュリティ基礎	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
4	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める。	1後	60	2		○		○		○		
5	○			データベース設計演習	データベースの設計するために必要な知識として、各種スキーマの基礎からデータベース設計の基本を習得する。	1前	30	1		○		○			○	
6	○			データベース演習	SQLの基礎を理解する。	1後	30	2		○		○				○
7	○			J a v a I	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Bの理解支援と位置づける。	1前	90	3		○		○		○		
8	○			J a v a II	J a v a Iの内容の理解を高める。加えて例外処理やマルチスレッドなど、本格的なプログラミングに必須の技術を習得する。	1後	80	2		○		○		○		

9	○		ネットワーク・セキュリティ演習	システムエンジニアとして必要なネットワーク技術の基本を習得する。	1後	30	2			○	○	○							
10	○		インターネット実習基礎Ⅰ	ホームページを作成するための言語をツールを使わずにHTML, CSSを学ぶ。	1前	30	1			○	○							○	
11	○		インターネット実習基礎Ⅱ	ホームページを作成するための言語をツールを使わずにHTML, CSSを学ぶ。	1後	30	1			○	○							○	
12	○		情報処理講座Ⅰ	情報活用試験1級の試験対策を行う。	1前	60	4			○	○	○							
13	○		情報処理講座Ⅱ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	1後	60	2			○	○	○							
14	○		デザイン思考	デザイン（設計）を行う際のプロセスを用いてユーザーの課題を定義し、解決策を見いだすマインドセットを実践を通して学習する。	1前	30	1			○	○	○							
15	○		システム開発演習（ノーコード）	ノーコードツールを活用し、要件定義から設計・実装・テストまでを体験しながらシステム開発の流れを実践的に学ぶ。	1後	30	1			○	○	○							
16	○		データサイエンスⅠ	統計学の基本概念を学び、表計算ソフトを活用してデータ分析の実践的なスキルを身につけます。データを適切に整理・可視化し、統計的手法を用いて意思決定に役立てる力を養う。	1前	30	1			○	○	○							
17	○		データサイエンスⅡ	統計学の基本概念を学び、表計算ソフトを活用してデータ分析の実践的なスキルを身につけます。データを適切に整理・可視化し、統計的手法を用いて意思決定に役立てる力を養う。	1後	30	1			○	○	○							
18	○		ビジネスツール演習Ⅰ	ビジネスの現場で必須となるビジネスツールソフトの基本操作と実践的な活用方法を学ぶ。実際の業務を想定した演習を通じて、効率的なデータ整理、資料作成、プレゼンスキルを習得する。	1前	30	1			○	○	○							

29	○		バックエンド 開発演習Ⅰ	Webサイトを構築するために必須となる言語を 学び、静的なWebサイトの構築技術を学習す る。	2 前	60	2			○		○		○					
30	○		バックエンド 開発演習Ⅱ	Webサイトを構築するために必須となる言語を 学び、静的なWebサイトの構築技術を学習す る。	2 後	60	2			○		○		○					
31	○		情報処理講座 Ⅲ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の 午後試験分野対策を行う。	2 前	30	2			○		○		○					
32	○		情報処理講座 Ⅳ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の 午後試験分野対策を行う。	2 後	30	2			○		○		○					
33	○		専攻Ⅰ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット 専攻、e-Sports専攻	2 前	30	1			○		○		○					
34	○		専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット 専攻、e-Sports専攻	2 後	30	1			○		○		○					
35	○		社会人基礎講 座Ⅰ	就職活動の流れを知り、いつ、何を、どんな 形でやるべきかを理解する。就職活動に臨む にあたり必要な常識、マナー、ルールを理解 する。自己分析を行うとともに、自分の考え を他人に理解してもらう為に必要な表現力 を高める。	2 後	30	2			○		○		○					
36	○		ビジネスプレ ゼンⅠ	就職活動に向けて、繰り返しLT(ライトニング トーク)等を実施し、対人プレゼンテーショ ン力を高める。	2 前	30	2			○		○		○					
37	○		ビジネスプレ ゼンⅡ	改まった場でのプレゼンテーションなど、 様々な場所や機会に応じた、的確で効果的な 対応能力を養う。	2 後	30	2			○		○		○					
38		○	インターン シップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実 際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適 性や職業選択について深く考え、就職活動の 方向性についての基礎的な理解を得る。	2 前	96	2					○		○					

39	○		アジャイル開発演習	スパイラルモデル、アジャイル、スクラムでの開発手法に基づいたシステム開発を行う。開発手法を通じて、開発チームで必須のコミュニケーション能力を養う。	3前	90	3		○	○	○							
40	○		RPA演習	コンピュータ上で行われる業務プロセスや作業を人に変わり自動化する技術を習得する。	3後	30	1		○	○	○							
41	○		AIプログラミング言語	AI分野で広く利用されているPython言語を習得する。アルゴリズムの基本(順次・分岐、繰り返し)を踏まえたプログラミングを習得する。また、データ分析に利用される標準ライブラリの利用についても学習する。	3前	60	2		○	○	○							
42	○		AIプロダクト開発演習	生成AIをはじめとする最新のAI技術を活用したプロダクト開発のプロセスを実践的に学ぶ。アイデア発想から企画設計、プロトタイプ開発、検証、発表までを一貫して行い、社会課題解決や新しい価値創造を目指す。	3後	30	1		○	○	○							
43	○		卒業制作(企画・設計)	これまで学んできたことを基に、今問題となっていることを解決できるシステム・アプリを企画する。また後期の実装工程をにらみ、実現方法を確定する。	3前	60	2		○	○	○	○	○					
44	○		卒業制作	前期に企画した内容を元に製品を完成する。プロジェクトチームの一員として、協調してより良いシステム開発を目指す。	3後	##	7		○	○	○	○	○					
45	○		AWSクラウド演習	基本的なAWS (Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ。	3前	60	2		○	○	○							
46	○		UIデザイン	ボタンの配置や配色に配慮した使い易い画面設計について学ぶ。	3後	30	2	○		○	○							
47	○		AWSクラウド応用	EC2やELB等を組み合わせ、負荷や障害に強いアーキテクチャを構築する。	3後	30	1		○	○	○							
48	○		AIと社会	AI概念の理解だけでなく、AIを活用した戦略、AIが社会にどのような変化をもたらすかについて学習する。また、機械学習やディープラーニングの仕組みや、人工知能ビジネスが必ずぶつかる「法律の壁」についても学習する。	3後	30	2	○		○	○							

49	○		専攻Ⅲ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	3前	30	1		○	○	○							
50	○		専攻Ⅳ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	3後	30	1		○	○	○							
51	○		社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	3前	30	2		○	○	○							
52	○		ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状などのビジネス文書作成時に必要な知識や技能を養う。	3前	60	4		○	○	○							
53		○	インターンシップⅢ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る。	3前	96	2			○	○							
54		○	職業体験実習(前期)	職業体験を通じて、実際の業務内容や職場の環境を学び、自らのキャリアプランを明確にする。また、社会人としての基礎力を養い、将来の進路選択に役立てる。	3前	##	15			○	○							
55		○	職業体験実習(後期)	職業体験を通じて、実際の業務内容や職場の環境を学び、自らのキャリアプランを明確にする。また、社会人としての基礎力を養い、将来の進路選択に役立てる。	3後	##	15			○	○							
合計					55 科目			2400 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日	鏡原 寿吉		〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日	穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ学科	令和 1(2019)年度	-	令和 2(2020)年度		
学科の目的	コンピュータ全般の知識、情報セキュリティ、ネットワーク設計、サーバ構築技術を修得させ、サイバー攻撃から情報資産を守るため情報セキュリティ技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	基本情報技術者試験、情報マネジメント試験、情報処理安全確保支援士試験、CCNA取得相当のカリキュラム						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 0 単位	430 単位時間 0 単位	1,270 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
30 人	19 人	0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		12	人			
	■就職希望者数(D)		11	人			
	■就職者数(E)		11	人			
	■地元就職者数(F)		5	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		45	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		92	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) セキュリティエンジニア職、インフラエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ネットワーク運用管理職、システムエンジニア職、プログラマー職 等					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/network-security/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位時間				
	うち必修授業時数		1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総単位数		0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位					
うち必修単位数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人				
	計		4 人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鬼武 克行	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和7年7月1日～令和8年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
鏡原 寿吉	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・教務部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 教務次長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月1日 15:30～17:30

第2回 令和7年2月27日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が重要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ログ解析演習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ログ解析ツールであるSplunkの利用方法を理解するとともに、セキュリティエンジニアの業務の理解を深めSoC業務への関心を高める	三井物産セキュアディレクション(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。
 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ICT活用研修(中級)	連携企業等:	イーディーエル(株)
期間:	令和6年4月3日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	事例共有、ICT活用フレームワーク、色々な「共有方法」を学ぶ、10X授業デザインマップの作成、他		
研修名:	AWS Academy x Cisco Networking Academy 合同プログラム交流会	連携企業等:	アマゾン・クラウド・サービス・ジャパン・合同会社、シスコシステムズ・ジャパン・合同会社
期間:	令和6年8月19日(月)～20日(火)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	サイバーセキュリティ教育におけるAWS Academyの活用事例、個性あふれるエンジニアの育て方 他		
研修名:	ホワイトハッカー講座「サイバー攻撃概論」	連携企業等:	(株)フォアア、(株)フォアア-Z
期間:	令和6年12月4日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	サイバー攻撃手法や具体的な仕組み、情報漏洩、経済的損失の発生プロセス、日常生活への影響について学ぶ		
研修名:	生成AI活用研修	連携企業等:	(株)ビットコミュニケーションズ
期間:	令和6年12月19日(木)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	生成AIの基礎知識(できること・問題点)、生成AIの活用事例、業務への利用 他		

研修名:	教職員のための教材開発および校務全般における生成AI活用研修	連携企業等:	Will Booster(株)
期間:	令和6年12月23日(月)～24日(火)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	生成AIを活用した教材開発演習、生成AIを活用した校務効率化の演習 他		
研修名:	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー	連携企業等:	人間環境大学
期間:	令和7年2月21日(金)	対象:	学科担当教員
内容:	表計算ソフトを使用したデータ分析の方法、政府統計データの利活用の仕方を知る		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	(一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月28日(水)～30日(金)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	キャリアサポーターのためのコミュニケーションスキル、仕事理解とキャリアガイダンス 他		
研修名:	専修学校教職員のキャリアデザインワークショップ	連携企業等:	(一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年9月4日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	外的キャリアと内的キャリア、ライフラインチャート、ライフキャリアシートの作成 他		
研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和6年9月12日(木)	対象:	全教員
内容:	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う		
研修名:	クレド作成研修	連携企業等:	(一社)香川県専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年8月28日(水)～30日(金)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	教師側の教え方の問題を確認し、学生側にも受ける姿勢や覚悟、責任を求める内容等について学習する		
(3) 研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	セキュリティ講座	連携企業等:	株式会社ネットワークバリュー
期間:	令和7年7月	対象:	情報系学科担当教員
内容:	現在主流のサイバー攻撃とその対策および今後のセキュリティ業界に必要となる考え方と技術 他		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和7年5月、6月、8月 他	対象:	全教員
内容:	マインドセットを育む「伝え方」の見直しおよび学生の意識づけを高める「見取り」について 他		
研修名:	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等:	福岡大学
期間:	令和7年7月、9月	対象:	全教員
内容:	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用 他		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける			
②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する			
③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標		教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか	
(2) 学校運営		運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか	
(3) 教育活動		教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか	
(4) 学修成果		資格・免許取得率の向上が図られていますか	
(5) 学生支援		退学率の低減が図られていますか	
(6) 教育環境		教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか	
(7) 学生の受入れ募集		学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか	
(8) 財務		学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか	
(9) 法令等の遵守		専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか	
(10) 社会貢献・地域貢献		学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか	
(11) 国際交流		-	
※(10)及び(11)については任意記載。			

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。またコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
渡邊 浩司	香川県立高松東高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
内海 恭子	在校生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://web.anabuki-college.net/download/guide/computer/ack_kankeisya-hyouka2024.pdf

公表時期: 令和7年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/department/computer/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	60	4	○			○		○		
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
3	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める。	1後	60	2		○		○		○		
4	○			データベース基礎	データベースの設計するために必要な知識として、各種スキーマの基礎からデータベース設計の基本を習得する。	1前	30	1		○		○			○	
5	○			データベース演習	SQLの基礎を理解する	1後	30	1		○		○			○	
6	○			J a v a I	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Bの理解支援と位置づける。	1前	90	3		○		○		○		
7	○			ネットワーク演習基礎Ⅰ	TCP/IPの基本的な知識を習得し、ルータ・スイッチの基本的な設定を習得する	1前	60	2		○		○		○		
8	○			ネットワーク演習基礎Ⅱ	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1後	60	2	○			○		○		

19			○	インターンシップ I	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る。	1 後	96	2					○		○				
20	○			ネットワーク演習応用	VLANやEtherChannel、マルチエリアOSPFなどの高度なネットワーク技術を習得し、デフォルトゲートウェイの冗長化やVLAN間ルーティングのトラブルシュートを的確に行う力を身に付ける。	2 前	90	3					○		○		○		
21	○			サイバー攻撃・防御演習 I	仮想環境を使って、安全な環境下でポートスキャンや中間者攻撃など、サーバに対する様々な攻撃手法とその防御方法を実践的に習得する。	2 前	60	2					○		○		○		
22	○			サイバー攻撃・防御演習 II	ペネトレーションOSの利用方法を理解し、安全な環境下でサーバに対するエクスプロイト攻撃の手法とその早期発見、対策手法を実践的に習得する。	2 後	60	2					○		○		○		
23	○			情報セキュリティ III	基本的なネットワークやセキュリティに関する知識や技術を学び、国家資格（基本情報技術や）やCompTIA Security+の取得ができるレベルを目指す。	2 前	60	4					○		○		○		
24	○			インシデント演習	ネットワークとサーバの構築技術を組み合わせ、総合的なシステムを構築し、システム運用時に起こる様々なインシデントを発見し、現象を把握して報告する流れを習得する。	2 後	90	3					○		○		○		○
25	○			セキュリティ実践演習	習得したネットワーク・サーバ構築・セキュリティの技術を活かし、様々な問題を設問し、学内トラブルシューティングコンテストの企画・環境構築・準備・開催までを行っていく。	2 後	##	5					○		○		○		
26	○			AWSクラウド演習	基本的なAWS (Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ。	2 前	60	2					○		○		○		
27	○			AWSクラウド応用	クラウド上に基本的なWebアプリケーションを構築する為に必要なAWSサービスを理解する。	2 後	30	1					○		○		○		
28	○			Webアプリケーション演習	PHPを使ったWebアプリケーションを作成するスキルを養う。MySQLを使ってSQLを学習する。HTTPの基本的な仕組みについて理解する。	2 前	90	3					○		○		○		

29	○		セキュアプログラミング演習	Webアプリケーションに起こりうる脆弱性の問題と対策について学習し、PHP、データベース利用における安全なWebサイトの実装を学習する。	2後	60	2		○	○	○							
30	○		専攻Ⅰ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2前	30	1		○	○	○							
31	○		専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2後	30	1		○	○	○							
32	○		社会人基礎講座Ⅲ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	2前	30	2		○	○	○							
33		○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る。	2前	96	2			○	○							
34		○	職業体験実習(前期)	職業体験を通じて、実際の業務内容や職場の環境を学び、自らのキャリアプランを明確にする。また、社会人としての基礎力を養い、将来の進路選択に役立てる。	2前	##	15			○	○							
35		○	職業体験実習(後期)	職業体験を通じて、実際の業務内容や職場の環境を学び、自らのキャリアプランを明確にする。また、社会人としての基礎力を養い、将来の進路選択に役立てる。	2後	##	15			○	○							
合計						33	科目	1700 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		鏡原 寿吉		〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報ビジネス学科		平成15(2003)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	ビジネスソフトやWeb・動画編集技術の修得、地域の商店街や学校と連携したイベント(パソコン教室・商店街のホームページ制作等)の企画・運営などを通して、IT活用技術とコミュニケーションスキルを兼ね備えた人材を養成する							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	MOS Expert、Webクリエイター認定試験、ITパスポート、日商簿記3級							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 0 単位		210 単位時間 0 単位	1,490 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
30人	9人	0人		0%	0%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		14人					
	■就職希望者数(D)		13人					
■就職者数(E)		13人						
■地元就職者数(F)		8人						
■就職率(E/D)		100%						
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		62%						
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		93%						
■進学者数		1人						
■その他								
(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 営業職、カスタマーエンジニア職、プログラマ職、総合職、事務職等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,700 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		280 単位時間						
うち必修授業時数		1,700 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		280 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B:単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位						
うち必修単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
計		1人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課程の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鬼武 克行	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和7年7月1日～令和8年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
鏡原 寿吉	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・教務部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 教務次長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
濱野 茂雄	国際教育センター専門教育部 所長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月1日 15:30～17:30

第2回 令和7年2月27日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が必要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
メディアデザイン実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	PhotoshopやIllustratorの実用的な使い方を習得し、より実践的なコンテンツを制作、グラフィックスの制作技術の基礎を、実習を通じて習得、コンテンツ制作の周辺知識についても理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合
Webサイト実践演習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	デザイン重視のWebページ制作を実践形式で学習・制作し、企画書にて実務レベルを知り、Web制作フローの理解、サイトデザイン・アーキテクトにそったWebデザインについて理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。

「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ICT活用研修(中級)	連携企業等:	イーディーエル(株)
期間:	令和6年4月3日(水)	対象:	学科担当教員
内容:	事例共有、ICT活用フレームワーク、色々な「共有方法」を学ぶ、10X授業デザインマップの作成、他		
研修名:	生成AI活用研修	連携企業等:	㈱ビットコミュニケーションズ
期間:	令和6年12月19日(木)	対象:	学科担当教員
内容:	生成AIの基礎知識(できること・問題点)、生成AIの活用事例、業務への利用 他		
研修名:	教職員のための教材開発および校務全般における生成AI活用研修	連携企業等:	Will Booster(株)
期間:	令和6年12月23日(月)～24日(火)	対象:	学科担当教員
内容:	生成AIを活用した教材開発演習、生成AIを活用した校務効率化の演習 他		
研修名:	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー	連携企業等:	人間環境大学
期間:	令和7年2月21日(金)	対象:	学科担当教員
内容:	表計算ソフトを使用したデータ分析の方法、政府統計データの利活用の仕方を知る		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月28日(水)～30日(金)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	キャリアサポーターのためのコミュニケーションスキル、仕事理解とキャリアガイダンス 他		
研修名:	専修学校教職員のキャリアデザインワークショップ	連携企業等:	一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年9月4日(水)	対象:	情報系学科担当教員
内容:	外的キャリアと内的キャリア、ライフラインチャート、ライフキャリアシートの作成 他		
研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和6年9月12日(木)	対象:	全教員
内容:	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う		
研修名:	クレド作成研修	連携企業等:	一社)香川県専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年2月19日(水)	対象:	学科担当教員
内容:	教師側の教え方の問題を確認し、学生側にも受ける姿勢や覚悟、責任を求める内容等について学習する		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ビッグデータの分析と活用～統計解析手法によるデータ分析入門～	連携企業等:	(株)インソースデジタルアカデミー
期間:	令和7年9月	対象:	学科担当教員
内容:	多次元分析、相関分析、回帰分析などを用いてデータから新たな知見を導き出す		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	非認知能力勉強会	連携企業等:	All HEROs 合同会社
期間:	令和7年5月、6月、8月 他	対象:	全教員
内容:	マインドセットを育む“伝え方”の見直しおよび学生の意識づけを高める「見取り」について 他		
研修名:	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等:	福岡大学
期間:	令和7年7月、9月	対象:	全教員
内容:	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用 他		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2)学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3)教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4)学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5)学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6)教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8)財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
渡邊 浩司	香川県立高松東高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
内海 恭子	在校生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://web.anabuki-college.net/download/guide/computer/ack_kankeisyu-hyouka2024.pdf

公表時期: 令和6年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/department/computer/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報ビジネス学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			パソコン演習 (Word)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(Word)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	60	2		○		○				○
2	○			パソコン演習 (Excel)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(Excel)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	60	2		○		○				○
3	○			パソコン演習 (PowerPoint)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(PowerPoint)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1前	30	1		○		○				○
4	○			Webサイト演習 I	Webページを制作するための基礎知識(構成、HTML/CSSコーディング、画面デザイン)について学習し、Webクリエイター試験の合格を目指す。	1前	120	4		○		○				○
5	○			PC演習	パソコンの構造やインターネットの仕組み、ソフトウェアのインストールなどを学び、日常生活の中でパソコンを活用するために必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1前	30	1		○		○				○
6	○			メディアデザイン演習 I	PhotoshopとIllustratorの基本操作を習得し、実務に則した技能を養い検定取得を目指す。	1前	30	1		○		○				○
7	○			ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状など、様々なビジネスシーンで使われるビジネス文書作成時に必要な知識を養う。	1前	60	4	○			○				○
8	○			メディアデザイン演習 II	PhotoshopとIllustratorの基本操作を習得し、実務に則した技能を養い検定取得を目指す。	1後	60	2		○		○				○
9	○			メディアデザイン実習	丸亀町商店街とのコラボイベントの準備、運営を行い実務技能を養う。お客様に対する接客マナーを学ぶ。	1後	60	2		○		○	○	○		○
10	○			パソコン演習 (Expert)	前期で学んだ、Word・Excel基礎を基に応用となるExpert試験合格を目指す。	1後	30	1		○		○				○
11	○			コンピュータリテラシ	職業人となり機器およびシステムの把握や、担当業務の遂行およびシステム化を推進するために必要な基礎知識を学習し、国家試験のITパスポート試験合格を目指す。	1後	90	6	○			○				○
12	○			Webサイト演習 II	Webサイト演習 I で身に付けた知識や技術を応用し、就職活動等で見せるためのオリジナルWebページを作成する。	1後	60	2		○		○				○

13	○		データ分析活用演習	マーケティングの基本、データ分析・整理手法の基礎を学習し、「地域経済分析システム(RESAS)」を利用し、ビッグデータの活用・分析方法を学ぶ。	1後	60	2		○		○									
14	○		コミュニケーション体育Ⅰ	コミュニケーション力を高めることに重点を置き、学生間で役割を分担、企画・運営し、実践的によりコミュニケーション力、行動力を高め総合的な人間力の重要性について理解を得る	1後	30	1		○			○	○							
15	○		インターンシップ	業界における専門知識と様々なセクションでの作業を体験し、仕事の内容を知る。学内で学んだ知識・行動・倫理(マナー)を会社で体験実習し、仕事の現場を知る。	1後	40	1		○				○							
16	○		社会人基礎講座Ⅰ	就職活動に臨むにあたり必要な常識やマナー、ルールを理解する。	1後	30	2		○				○		○					
17		○	インターンシップⅠ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	1後	96	2				○			○						
18	○		動画制作演習	動画編集ソフト「PowerDirector」の基本操作を理解し、実務に則した技能を学習するとともに、魅力的なビデオを作るためのアイデア手法を理解する。	2前	60	2		○					○						○
19	○		Word・Excel活用演習	MOS資格で身に付けた操作スキルをさらに活用するために、Word・Excelの演習を通し、実務に直結する効果的なビジネススキルを学習する。	2前	60	2		○					○						○
20	○		プレゼンテーション	MOS資格で身に付けた操作スキルをさらに活用するために、PowerPointの演習を通し、プレゼンテーションを使った効果的な発表方法を学習する。	2前	30	1		○					○						○
21	○		インストラクター演習	コミュニケーション力養成とパソコンスキル定着のため、指導実施におけるリハーサルや指導の流れを実習し、第三者(後輩)に対して操作指導を行う。	2前	30	1		○					○						○
22	○		Webデザイン演習	CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)を利用したWebサイト制作としてWordPressを使い、Webサイトを構築する手法を学習する。	2前	60	2		○					○						○
23	○		商業簿記	簿記を基礎から学習することにより、計数感覚を身に付け、総務・経理・営業と幅広い分野で活かせる経理実務を学ぶ。	2前	90	3		○					○						○
24	○		SNSビジネス演習	SNSとは何か、ソーシャルメディアの特徴、注意点、ソーシャルメディア販促が注目される理由を理解し、SNSを活かしたマーケティング知識を学習する。	2前	30	1		○					○						○
25		○	専攻Ⅰ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-sports専攻の3専攻の中から1つを選択しそれぞれの分野にて学ぶ。	2前	30	1		○					○						○
26	○		社会人基礎講座Ⅱ	基本となる「就業意識」を醸成し、実際の就職活動に即した必要な知識・技術を学習、単に内定を獲得するだけでなく、就職後も「より良き社会人・企業人」への理解を得る	2前	30	2		○					○						○
27	○		Webサイト実践演習	Webページ制作の実現力やコミュニケーション力の向上のため、丸亀町商店街と連携し協力店舗への訪問、要望の聞き取りを行い、店舗の応援Webサイトを制作することで実践力を身に付ける	2後	220	7		○					○	○	○	○	○	○	○

28	○		パソコン教育演習	今まで培ってきたパソコン操作の知識、技術やコミュニケーション力を活かし、地域教育現場(高校)の生徒達や後輩たちにパソコン操作の正しい理解を得られるよう指導する。	2後	90	3		○		○	○	○		
29	○		ビッグデータ	マーケティングの基本、データ分析・整理手法の基礎を学習しグループごとにオープンデータを収集、分析する。分析後に得た、問題点や改善点を発表する。	2後	60	2		○		○		○		
30	○		コミュニケーション体育Ⅱ	コミュニケーション力を高めることに重点を置き、学生間で役割を分担、企画・運営し、実践的によりコミュニケーション力、行動力を高め総合的な人間力の重要性について理解を得る	2後	30	1		○			○	○		
31		○	専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-sports専攻の3専攻の中から1つを選択しそれぞれの分野にて学ぶ。	2後	30	1		○		○		○		
32		○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2後	96	2			○		○			
合計						32	科目				1700	単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。